



株式会社 協和精密工業 代表取締役 石川光男

秋田に 根ざして30年 雇用の創出に貢献

多品種少量生産でニーズに応える

協和精密工業は、治具(じぐ)、工具、精密部品のメーカーで、本社は東京都町田市にある。現在の大仙市土川に秋田工場を新設したのは1986年のこと。大自然に囲まれた環境を石川社長は絶賛する。「昔、スイスに行ったとき、時計の工房が牧草地の中に建っているのを見て、『空気がきれいで、心和む環境だからこそ良い仕事ができる』と感じた。秋田はスイス同様、自然豊かなところ。ものづくりには最高の環境」と力を込める。

同社が得意とするのは、多品種少量生産。設計・製造・検査・仕上・組立・納品を一貫管理するスタイルと、確かな技術、実績が評価され、日本有数の大手企業から高難度の依頼が寄せられることも多い。

東京オリンピックの年に創業

創業は1964年10月。オリンピック開催で日本中が盛り上がる中、石川社長を含む3人の若者が、前身である「協和精密工業所」を設立した。

それより前、石川社長は、町田にあるノギスメーカーに11年間勤務。ノギスとは、100分の5ミリ単位までの細かい寸法を測定できる精密な工具。

「当時の職場は、『仕事は目で盗み、肌で感じて覚えろ』という“職人の世界”。先輩の作業を見て仕事を覚えつつ、本屋で専門書を買い、自ら勉強し高みを目指す日々。もっと勉強していろいろな仕事を覚えたいたいという思いが強かった」。

ある時、石川青年は、より精度の高いノギスの製造方法を思いつく。上司に提案したものの、採用されず



「悔しかった」と語る。その出来事をきっかけに、1つの会社に留まるのではなく「より広い世界で、もっといろいろなことを学びたい」との思いが募り、27歳のときに同じ年の同僚2人とともに独立した。「若かつたから怖いもの知らずだった。とにかく仕事に燃えていた」。折しも世は高度経済成長期の真っただ中。どんどん仕事が舞い込んだ。

人材育成に力を注ぐ

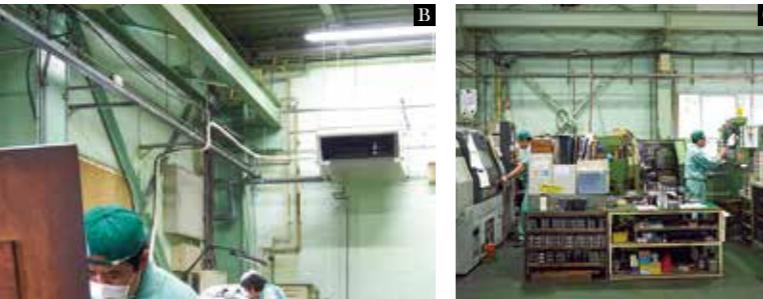
石川社長は断言する。「ものづくりを極めるには、人づくりが肝要。ワンランク上の製品を作るには、まずは人間がワンランクアップしないと」。自身、会社員時代に「学びたい」「視野を広げたい」という欲求を強く感じていた。しかし、当時は学習する場所や機会が少なく、独学するしか道はなかった。それだけに、人材育成には惜しみなく投資する。金属加工や検査

などの技術の習得、パソコンのスキルアップ、リーダー格の養成など、社員は硬軟とりませたさまざまな学びの場を与えられている。「将来のものづくりはますますロボットに頼っていくだろう。その中で生き残るには、人間にしかできない仕事を極めるしかない。例えばそれはきめ細やかな対応だったり、“匠の技”と言われるような手作業ならではの高度な技術だったりさまざま。そして、目標を掲げ、積極的に学ぶことで人も会社も成長できる」。目指すのは、さらなる技術の追究であり、昔と変わらぬ職人気質の実直なものづくりだ。

かつては縁もゆかりもなかった秋田。今や秋田工場は地域になくてはならない存在となり、地元の人々多くの暮らしを支えている。**B**



- A** 設計、製造、仕上げ、組立、検査、納品まで一括管理を行っている。
- B** 各種精密部品の製作。
- C** お客様のご要望に応える工作機械を揃え、難易度の高い設計に対応している。
- D** 精度の高い小径の穴アケが可能。
- E** 東京と秋田を往復する日々を送る石川社長。
- F** 製品。顧客のニーズに対し、「高品質」「短納期」で応えている。



株式会社 協和精密工業

【秋田工場】〒019-2111 秋田県大仙市土川字大野13-2
Tel.0187-75-2123 Fax.0187-75-0395

【本社・工場】〒194-0213 東京都町田市常磐町3245番地
Tel.042-797-0717 Fax.042-797-5477

- 設立／昭和39年10月
- 事業内容
- 資本金／4,000万円
- 計測器、ゲージ、治具、工具、精密部品、試作品等の製造・販売
- 従業員／60名